



TITLE:

<批評・紹介>支那書籍解題書目書
志之部 長澤規矩也編著

AUTHOR(S):

藤枝, 晃

CITATION:

藤枝, 晃. <批評・紹介>支那書籍解題書目書志之部 長澤規矩也編著. 東
洋史研究 1940, 6(1): 66-67

ISSUE DATE:

1940-12-20

URL:

<https://doi.org/10.14989/145719>

RIGHT:

中期に屬するものとされてゐる。

既に早く故關野博士により高句麗壁畫古墳の年代觀が具體的根據はあげられなかつたが大體示されてゐた。(『朝鮮美術史』)又故内藤博士は支那古鏡に本づいて年代觀を立てられたが極めて興味ある方法であつた。(『支那繪畫史』)所收「高句麗古墳の壁畫に就いて」本書の著者の一人梅原博士は最近「高句麗の墓制に就いて」(『史林』第二十四卷第一號)なる論文に於て石塚の方がより高句麗的で従つて大體論としては石塚の方が土塚より時代が遡るが必ずしも石塚營造の時期に土塚が行はれなかつたことを意味しないとされ、むしろ兩者の構造に於てかなり類似したものあることを藤田亮策教授と共に指摘されてゐる。今や『通雅』上下二卷は高句麗文化の研究に對して根據ある報告を提供したがそれは既に將來の研究に對して幾多の課題を與へたことを意味してゐる。中村清兄氏によつて取上げられた星宿の問題(『考古學論叢』第四輯所收「高句麗時代の古墳について」)或ひは本書中に於いて岡田芳三郎氏によつて觀察された獸面等はさきの故内藤博士のとられた方法或ひは梅原博士の指摘された古墳構造上の點と共にその事を充分示してゐると思ふ。

尙本書は限定豪華版であるため一般への便宜がはかられてその概要が『考古學雜誌』(第三十卷第九號)に載せられてゐる。

〔澄田 正一〕

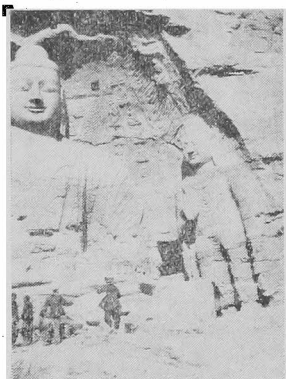
支那書籍解題 書目書志之部

長澤規矩也編著

昭和十五年十一月十五日 東京文求堂發行
四六判 三九一頁 定價貳圓八拾錢

序文によれば、著者は「漢籍の解題は、予に課せられたる責務の一と考ふるに至りたる今日、全般的の解題は漸次執筆中」であつて、その手始めとしてこの書目書志の解題を公けにせられたとのことである。

およそ漢籍を涉漁するかぎりは、書目・書志の厄介にならない者はないが、さういふ書目書志がかう澤山あつては、これらを統合整理したものが當然はしくなつてくる。今までに「書目の書目」として編纂せられたものとして『書目學要』や『書目長編』などがあるが、前者は古い出版(民國九年)であるから問題でなく、後者とても、十年も前の出版であつて、其の後に刊行せられた書目類は非常に多く、また必ずしも編者の實查によつてゐないので信用出來かねる箇所も多いことは既に認められてゐたことであつた。所が本書は、採録せられた書目の數も少くはなく、しかもこれに書誌學界きつての權威者の手になる解題が一々つけられてゐるのだから、本書の公刊によつてわれわれの今後蒙る便益は頗る多いことと思ふ。



雲 崗 便 り

十一月に入つて雲崗はめつきり寒くなりました。五日には雪が降りました。周圍の山は降り横つた雪で白く、地上の水も日陰は一日中解けません。今日の屋外気温は零下十五度までも下つたことでせ

う。發掘に従事する苦力達も朝は先づ凍りついた表面の土をコツ／＼と鶴嘴で掘らねばなりません。發掘は中央窟前面に南北に亘る二本のトレンチと西方窟前面の東西南北丁字形トレンチが主要なるものです。これと云つて御便りする程のことではありませんが、第九窟の前のみなら

せられた書目・書志は、靜嘉堂文庫所蔵のものを主としてこれに著者、東京帝大、麓保孝氏の藏書を補つたとのことで、今年刊行のものまで至極克明にとり入れられてあり、總数は六百をこえてゐる。この數は『書目長篇』所收のものより少ないが、これは取捨の標準の異なるためと、他書目よりの轉錄をせず全部を實査によつたためであつて、缺漏の多いことを意味するものではない。

而してこれらを史志附現存目、郡邑志、官藏、圖書館、學校、家藏、勸學、讀書題跋、專科目、著述目、版刻、禁燬目、徵訪、徵刻、叢書目、引書目、書誌學、叢刻、雜書の十七門に分ち、更に附載として近刊洋假裝本、展覽目錄、工具、本邦編刊のものがあつて、附載以外には、一々解題、序跋及びテキストが書かれ、而してはじめに書名索引が附けられてある。解題には書物の解説のほか、著者の籍貫、字號、時には略歴などが書かれてあ

る。大概は三四行から六七行程度の短いものではあるが、四庫式分類法の模範的なものとせられる『天津圖書館書目』、蒐書讀經の指針とせられる『書目答問』などの解題には數頁があてられてあるのをはじめ、注意すべきものには勿論詳しい解題がある。また參考論文のあるものは、これが擧げてあること、例へば『直齋書錄解題』の項に本誌第三卷附録の索引が擧げてある如く、この點甚だ親切である。

以上が本書の概略である。序文に依ればこれが完成に五年を要したとのことである。實際短い年月には到底なし得られない、苦心の要する仕事である。全般的な解題の完成の一日も速かならんことを祈りつゝ、併せて、書目書誌の今後の刊行のものや日本人編纂のものについての解題を補遺として續刊せられんことをも望む次第である。

(藤 枝 晃)